

キコニアレター

2025.3.5 発行 No.38



まんのう

人工巣塔化した電柱で子育てするコウノトリ (まんのう町提供)

の空を舞うコウノトリ ～すばらしい環境をいつまでも～



香川県仲多度郡 まんのう町

令和5年3月下旬、住民の方から「ツルが巣を作っている！」と連絡がありました。「えっ、ツル!？」と思いきや、現場に駆け付けると、そこには国の特別天然記念物コウノトリの姿が。香川県内でコウノトリが巣作りし、ヒナがふ化することは初めてのことでした。

成功の鍵は地域住民

1年目は、全てが初めての経験であり、何から始めてよいか右往左往していたことを思い出します。兵庫県立コウノトリの郷公園の方に指示を仰ぎながら、コウノトリの観察記録や見学者への対応に当たっていましたが人員が足りません。そんな時、助けていただいたのが地元の住民や日本野鳥の会香川県支部（以下、「野鳥の会」という）の方々でした。自主的なパトロールの実施やコウノトリに関する講演会の開催などの保護活動に取り組んでいただき、早い段階で地域の方にコウノトリを保護することの大切さが浸透したことが成功の鍵だったと思います。今では、地元の方と野鳥の会を中心にネットワークが形成され、令和6年5月14日は「まんのう町コウノトリを見守る会」（以下、「見守る会」という）が発足しました。

営巣地の保存

もう一つの課題として、巣の保存方法がありました。地元の方々から「現状の巣をそのまま残してほしい」との要望もあり、電柱の上に営巣された巣をどのように存続させるかについて関係機関と幾度となく協議を重ねた結果、電線の迂回方法や工事費用などの課題を克服して、令和6年

1月に人工巣塔化工事を完了することができました。また、工事完了直後から親鳥の動向を注視して人工巣塔の利用を確認していたところ、数日後には巣に戻る姿を確認でき、その後、令和6年3月末に産卵し、7月3日から4日にかけて3羽のヒナが巣立ちを迎えました。

新しい取り組み

2年目となる令和6年には、新しい取り組みも始めました。上述の見守る会の発足を始め、環境学習として地元こども園を対象にした観察会の開催、ヒナの愛称募集、町広報誌への特集の掲載などです。これらの活動を通して町民の方々にコウノトリへの興味を持ってもらい、コウノトリが繁殖できるほどのすばらしい環境が整っている自分たちの町に誇りを感じてもらいたいと思っています。

豊かな自然をいつまでも

コウノトリが生きるためには多様な生物が生息する豊かな自然環境が必要です。コウノトリにとって住みやすい町は人にも良い環境であり、まんのう町の誇るべき自然環境を次世代へ継承していくことが大切です。コウノトリが生息するようになったことで、まんのう町に広がる農村の原風景が持つ価値が一層高まったと思います。この貴重な自然環境を継承できるよう、見守る会を始め関係団体とともに、普及啓発活動を進めていきます。兵庫県立コウノトリの郷公園をはじめとする関係者の皆様のご支援に心より感謝申し上げますとともに、今後ともご支援のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

コウノトリの個体数 (2025.1.31 時点)

飼育				
施設・拠点名	オス	メス	不明	計
兵庫県立コウノトリの郷公園	27	33	0	60
附属飼育施設コウノトリ保護増殖センター	19	18	0	37
養父市伊佐拠点	0	0	0	0
計	46	51	0	97

野外				
カテゴリー	オス	メス	不明	計
兵庫県放鳥	18	12	0	30
兵庫県野外巣立ち	95	108	4	207
野生個体	1	1	0	2
他府県放鳥	10	6	0	16
他府県野外巣立ち等	91	105	4	200
計	215	232	8	455

移り変わるコウノトリの郷の景観 戦後から現在までの航空写真を見比べて



兵庫県立大学大学院
地域資源マネジメント研究科 講師
兵庫県立コウノトリの郷公園
ソシオ研究部 研究員

YAGASAKI Taiyo
矢ヶ崎 太洋

私は関東で生まれ育ち、2021年4月に兵庫県立大学とコウノトリの郷公園に着任しました。私の故郷である東京都八王子市には野生のコウノトリは見られなかったので、コウノトリが野生で生息する豊岡に来た当初は驚きの連続でした。現在は地理学および地域計画学の教員または研究者として、コウノトリに限らず、様々な地域資源を対象に調査や研究を行っています。私の専門とする地理学は「空間と場所の学問」といわれ、「なぜ、ここにこれがあるのか？」という問いを原点に、地域のさまざまな事象を調査し、地図やGIS(地理情報システム)を用いた研究を展開しています。

地域の変化を考える上で、行政が公開する航空写真は重要なデータです。国土地理院の「地図・空中写真閲覧サービス」では、過去から現在までの航空写真が公開され、誰でも簡単に手に入れることができます。現在の航空写真については各自治体が公開しています。コウノトリの郷公園のある豊岡市では、2017年の航空写真を閲覧できます。新旧の航空写真を比較することで、私たちは地域の変化を詳細に知ることができます。

それでは、コウノトリの野生復帰が展開した豊岡やコウノトリの郷公園の風景の変化について、航空写真の比較を通して、考えてみましょう。

1947年と2017年の航空写真を見比べると、水田の区画は均一になり、広がったことがわかります。三江地区では1966年から1970年にかけて圃場整備(68.1ha)が実施され、祥雲寺の水田は一変しました。航空写真の左上の住宅地は、栄町の公営団地で、1973年から1979年にかけて整備されました。今ではにぎやかな地域です。航空写真の右上にある祥雲寺周辺の集落は拡大しており、一部の水田や畑地が住宅地に転換されました。1999年にコウノトリの郷公園が開園し、現在の風景となりました。地表の風景を空からとらえた航空写真は、コウノトリなど、鳥類の視点と同じです。新旧の航空写真を眺めながら、コウノトリになった気持ちで、地域の変化に思いを馳せてみてください。



コウノトリの郷公園 航空写真

1947年



2017年



コウノトリの 飛来情報について

皆様からお寄せいただいたコウノトリの目撃情報に基づいて、都道府県単位に飛来した実個体数を紹介しています。

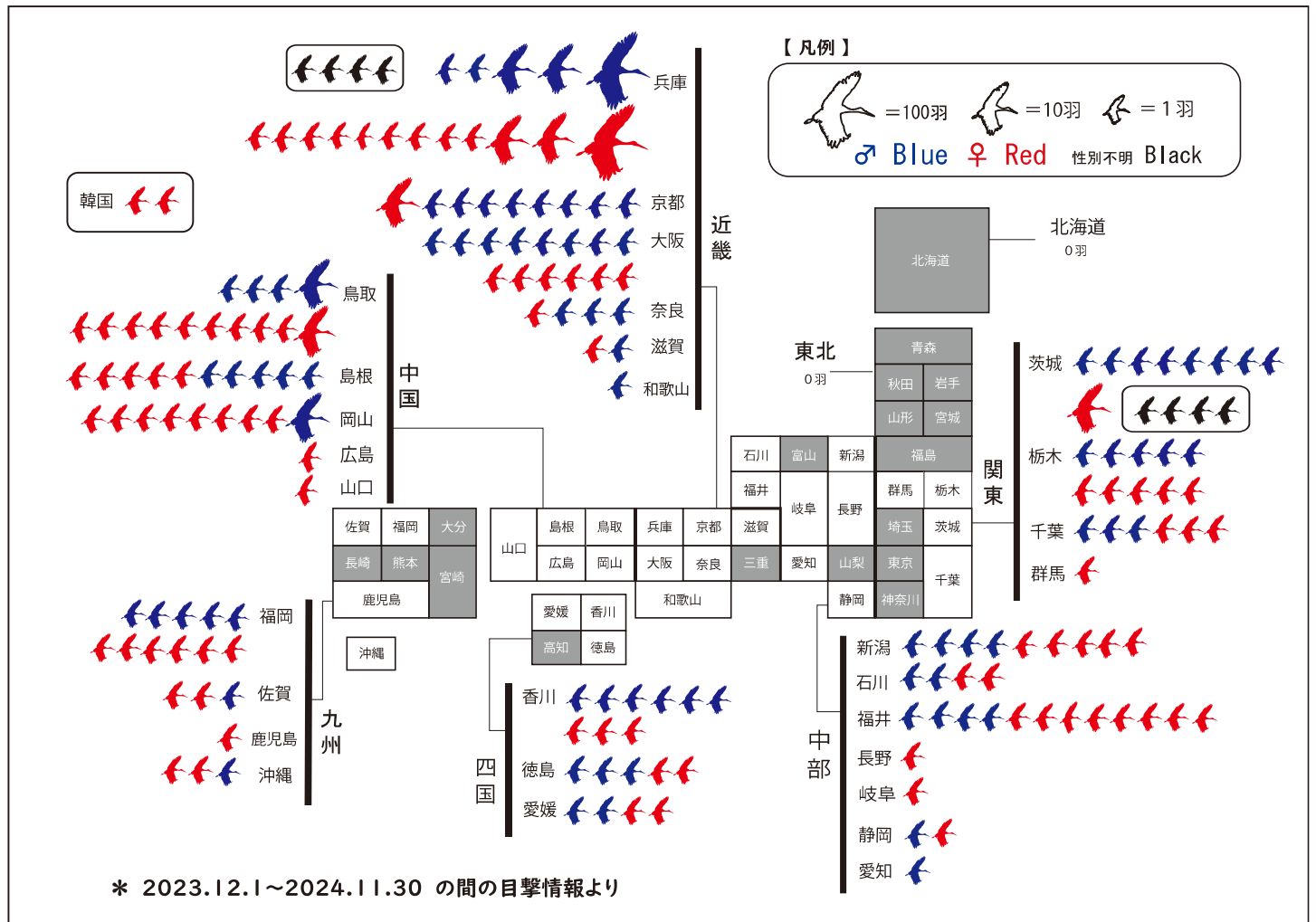
昨年の同時期と比べて、個体数は91羽、国内の飛来先は2県増えています。
(2024.11.30 現在の野外個体数463羽)



今年度最南端の竹富島に飛来した J0701(メス)
【沖縄県石垣市にて 2024.11.26 関上裕文様提供】



ため池に集まるコウノトリの群れ
【兵庫県加西市坂本町奥ノ池にて 2024.9.28 三船重夫様提供】



この春は博士前期課程7名、博士後期課程1名が修了する。巣立ちの春も数えてみればいつしか10回目だ。これまでに送り出した修了生は80名を超えた。

10年を経て大学院をとりまく環境は大きく変化した。野外のコウノトリは飛躍的な増加をみせ、いまや但馬はもちろん、全国各地を飛び回っている。

修了生も同様だ。但馬に根をおろして活躍している者もいれば、遠く離れた地で頑張っている者もいる。それぞれ見つけた天地で、大きな花を咲かせてくれることを願いたい。(望鶴生)

各種イベントを実施しました

コウノトリの郷公園を彩る冬のイルミネーション 12/20(金)～1/31(金)

園の魅力づくりの一環として初の試みでイルミネーションを実施しました。寒い冬に心温まる雰囲気の中でほのぼのとした時間を過ごしていただくため、また写真映えるスポットとして、素敵な思い出の時間になるよう演出しました。



クリスマスイベント 12/21(土)・22(日)

来園者の皆さんへクリスマスプレゼントとして、心ばかりのお菓みにクリスマスにちなんだオリジナルデザインの「コウノトリ豆知識カード」を同封し、コウノトリの魅力を含めました。22日は雪の降る寒い日でしたが、多くの皆さまにご来園いただきました。



新春缶バッジ配布 1/5(日)

新春を記念して、缶バッジを作成し配布しました。コウノトリをモチーフに和風のデザインを4色、子供向けのデザインを4色の計8色で200個作成しました。

昔から豊岡ではコウノトリは、めでたいことの起る前兆の鳥「瑞鳥」とされています。

コウノトリと皆さんにとって良い年になるようにと思いを込めました。



「世界湿地の日」パネル展 1/24(金)～2/16(日)

「世界湿地の日」(2月2日)に合わせて、普及啓発イベントを開催しました。湿地で暮らすコウノトリの様々な姿を撮影した写真や、兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科の学生たちが行った研究成果なども展示し、湿地とコウノトリとのつながりなどについて思いを巡らせていただけるよう工夫しました。



ひょうごの宝！ コウノトリオンライン講座 (通年)

野外コウノトリの繁殖地・飛来地が年々拡大している現状を鑑み、より多くの方々へのコウノトリの野生復帰事業についての普及啓発を図るため、年間を通してオンライン講座を実施しています。神戸市立の小学校では、4年生の社会科でコウノトリについて詳しく学習するカリキュラムが作られており、例年多くの学校から要請をいただいています。今年度は、17件(一般団体2件を含む)の講座を実施しました。



《ふるさとひょうご寄附金》

ふるさと納税

でコウノトリ野生復帰プロジェクトを応援してください！

コウノトリの郷公園では、全国の皆さまのご協力を得ながらコウノトリの保護増殖と野生復帰に取り組んできました。しかし、まだ道半ばの状態にあり、特に昨今では飛来地や繁殖地が全国的に拡大したことで、当園の技術的支援の必要性が高まっています。また、野外コウノトリの増加に伴い、事故等による救護個体の増加や近親婚の発生など新たな課題への対応や、遺伝的な多様性確保のための国内外の施設とのさらなる連携が重要となってきています。

これらの取り組みを進めていくためにも本プロジェクトへのご賛同・ご支援をお願いいたします。本プロジェクトの詳細内容は、ホームページに掲載しています。

申込方法

1 ふるさと納税ポータルサイトによる申込み

ふるさとチョイス



楽天ふるさと納税

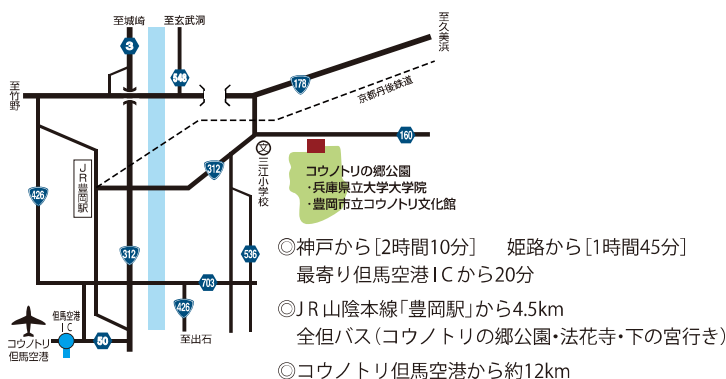


または

2 寄附申出書による申込み



ACCESS!



編集後記

昨年、祥雲寺巣塔では、祥雲寺ペアが2回目の産卵により2羽のヒナを巣立たせました。今年も繁殖の動きを見せており、異常気象による厳しさを増す自然環境の中においても、さらにかいがいしくヒナたちを育て上げてくれることでしょう。

郷公園は今年度開園25周年、県立大学大学院10周年を迎え、来年度は放鳥20周年の節目の年となります。今年度より「郷公園魅力発信チーム」を立ち上げ、不易流行の理念のもと、コウノトリや郷公園の魅力の創出・発信の取り組みを進めています。私たちも、コウノトリのペアのように逞しく変化に対応し、魅力ある情報を発信していきたいと思っております。

(社会教育推進専門員 岡田厚志)



兵庫県立コウノトリの郷公園

Hyogo Park of the Oriental White Stork

兵庫県豊岡市祥雲寺128 tel: 0796-23-5666 fax: 0796-23-6538

開園時間: 9:00 ~ 17:00

休園日: 毎週月曜日

(休日に当たるときはその翌日)

12月28日~1月4日

e-mail: kounotori@stork.u-hyogo.ac.jp

ホームページ: <https://satokouen.jp/>

facebookページ: <https://www.facebook.com/satokouen/>

インスタグラム: https://www.instagram.com/hyogo_satokouen/



HP

FB

Instagram